

若者たちの学びの場をつくる

総務文教



Kuni's Barの成功を収めた国見カスタムラボ参加者(昨年8月)

5月16日、所管事務調査として、企画情報課の「国見ホイスコーレ事業」の調査をしました。

事業の主な内容と特徴は、次のとおりです。

① 国見プロジェクト学習

② 国見カスタムラボ(対象)

(対象：中学生)

- ・ 対話を通じて、学校では学べないことを学ぶ。
- ・ iPadなど最新のツールを活用し、最先端の学びを体験できる。

高校生、大学生、社会人)

イベントなどを企画・実施するなど、自分たちのアイデアが形になる体験や、普段は出会えない人と出会うことができ、活動を通じて成長を実感できる。

- ③ 短期ホイスコーレ(対象：高校生、大学生、社会人)
- ・ 北欧の教育を体感し、世代・国籍を超えた交流により、新しい自分を発見することができる。

・ まちづくりに関わる事ができる。

調査の結果、次のことがわかりました。

- ① 通常の学校では学ぶことのできない幅広い体験を含めた学習ができる。
- ② これからの町や、地域を支える人材育成を目指した事業である。

(報告者 松浦常雄)

※1「ホイスコーレ」とはデンマーク語で、『国民学校』の意味。対話を通じて学ぶことが基本。

産業建設

くみにみ農業ビジネス訓練所を視察

4月17日、産業振興課所管事務調査として、くみにみ農業ビジネス訓練所を現地視察しました。トマト養液栽培施設として大型鉄骨ハ

ウス1棟、ビニールハウス4棟、露地農場として900m²があります。水耕栽培として水を巡回して養液を管理しています。利益を追求する場所ではなく、新規就農者が安定した農業経営をするための勉強の施設です。将来的に、ランニングコスト分は利益で賄えるよう考えるべきであると考えます。

大型鉄骨ハウスのトマト栽培施設

研修募集を行っているが、長期研修者の応募がない点があり、連携した募集PRが必要ではないかと強く感じました。

汚泥全量搬出後の 県北浄化センター の状況を確認

5月18日、上下水道課の所管事務調査として、県北浄化センターの仮設減容化施設及び保管テントの撤去



設置された太陽光発電について説明を受ける議員

状況を現地視察しました。平成23年3月の東日本大震災後、汚泥搬出が停止となり、場内保管の仮設テントは最大で72張りとなりました。平成27年4月に仮設乾燥施設の運転を開始し、平成29年1月に保管汚泥全量搬出が完了しました。仮設テントも2月末にはすべて

撤去し震災前の臭気のない状況になっておりました。

敷地内には、「再生可能エネルギーの先駆けの地」とするため太陽光発電が設置され運転しておりました。発電能力は約1,900KWとなり、約550世帯の電力を賄うことが可能であるとのこと。現在は売電のみ

ですが、今後は地元当町にも供給できるよう努力したいとのことでした。震災後中止となっておりました「下水道まつり」が今年から再開されることと

広報

表紙のデザインや 文字の配置がポイント

町村議会広報研修会

「読まれる議会
だよりの編集と
表現ポイント」

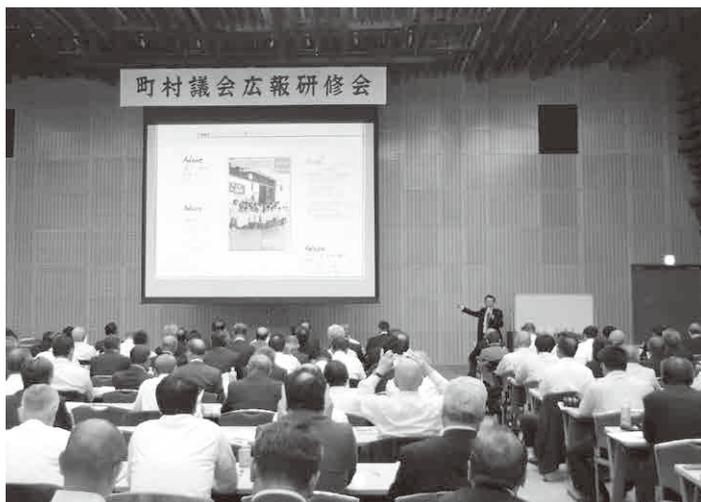
講師

グラフィックデザイナー

長岡 光弘氏

5月23日、郡山市ビッグパレットふくしまで町村議会広報研修会が開催され、広報常任委員5人が参加しました。

国見町議会広報常任委員会は、この研修会に毎年参加しており、年4回の「議会だよりの発行に、研修で



興味を持ってもらえる広報紙のポイントを学びました

なり、以前のように、皆さんに楽しんでもらえるようなイベントとなることを願います。
(報告者 渡辺勝弘)

講義では、読まれる議会だよりの編集と表現のポイントについて、さらに、これからの議会だよりに求められるものについて話があり、手に取ってもらえる広報紙は、表紙のデザインや文字の大きさが重要になるとの指摘がありました。
研修の最後は4町1村の議会だよりを参考に、どのようにすればもっと読みやすくするか、きめ細かな説明を受けました。講師が少し修正しただけで、まったく違う広報紙に早変わりするのは、手品を見ていたようでした。魅力ある広報紙作りには、チャレンジが必要と思えた研修でした。
(報告者 松浦和子)